

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2395700244 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人あかね会 | | |
| 事業所名 | グループホームうのさと茜邸 | | |
| 所在地 | 知多郡東浦町大字緒川字雁狭間山1番地21 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年 3月 9日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年 4月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=2395700244-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 中部評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F | | |
| 訪問調査日 | 平成30年 3月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

複合の施設になる為、将来、グループホームで対応が難しくなっても、同じ敷地内にある特別養護老人ホームや認知症対応型デイホームを使用頂くことが出来、併設する託児所の子供達との触れ合いも施設内中庭やグループホームのユニットで楽しんで頂く事が出来る施設になります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人を母体とする複合型のホームであり、敷地内の特養・認知症対応型デイホームと併設している。利用者の重度化などにも対応出来ることは利用者やその家族にとって安心できる要素のひとつである。また、敷地内の利用者同士の交流も可能であり併設される託児所の子供たちとの触れ合う機会を持つことにも積極的に取り組んでいる。
開設して約1年のホームではあるが自治会との関りや多数のボランティアの受け入れ・地域行事へ積極的に参加していこうとする取り組みがみられ地域の福祉に貢献しようとする姿勢は高く評価できる。ホーム運営やサービスの質の向上に向けた、課題の改善活動への今後の取り組みに大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人としての理念を掲げ、新人教育の際に説明を行い、名札に入れて常に見えるようにしている。 また、職員の通用口に張り出しをして、常に確認を出来るようにしている。 | 施設理念は新任研修で説明し、職員に周知しているとともにクレドカードに記載し常時携帯している。読み合わせや唱和は行っていないが、理念に沿った委員会活動や日常支援の中で整合性の確認を行っている。 | 開設して1年弱ということもあり、管理者・職員ともに理念のより一層の理解のための今後の継続した取り組みに期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ボランティアの受け入れを定期的に行い、施設内の地域交流ホールを活用して、演奏や踊りなどを行って頂いたりして交流をしている。 また、自治会に参加して定期的に回覧板を回して頂き交流をしている。 | 自治会に加入し、地域活動の情報を取直し地域行事への参加を促している。近隣に小学校やコミュニティセンターもあり、行事参加を目指して調整もしている。施設は理美容等、地域資源を利用した利用者の生活支援に努めている。 | 開設間もない事業所ではあるが地域との交流の実績も出来ている。利用者の地域とのつながりが途切れぬよう今後の継続した取り組みに期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 特になし。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度、開催を行い地域の区長、民生委員、地域包括支援センター、御家族、入居者から話を伺い、ヒヤリハットや事故報告等、事業所の現状を報告し、頂いた意見は現場の職員と共有し、サービスの向上に活かしています。 | 運営推進会議は2ヶ月に1回、併設施設と共同で高齢者支援センターや地域の区長・民生委員や利用者、利用者家族の参加を得て開催し、施設の状況報告から提案・相談事項まで積極的な意見交換がされサービス向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 常日頃から連絡を取れている訳ではないが、事業所として書類提出時等、報告や相談をすることがあります。 | 運営推進会への参加のほか、報告・届出のため定期的に窓口訪問している。高齢者支援センターからは施設を利用した認知症カフェ(オレンジカフェ)の開催するなど良好な協力関係が築けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 委員会活動等を活用して勉強会を開催し、また、現場でも職員同士で意見を出し合いながら、拘束のないケアが出来るように取り組んでいる。 | 委員会活動のテーマとして「虐待・身体拘束」を取り上げ定期的な勉強会を行っている。職員は、マニュアルを基に身体拘束の弊害を理解し、拘束しない介護実践に努めている。スピーチロックも職員の年代感を認識し接遇するように心がけている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体的な虐待のみでなく、言葉遣い等も含めて、入居者様に対して苦痛を与えないように心掛けており、職員に対しても出来ていない事があれば、職員同士で注意をする。管理者から注意する等、日々、防止に努めるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 委員会活動等を活用して勉強会を開催し、制度について学ぶ機会を設けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約、解約時は十分な説明を行い、入居者様や御家族がわかりやすいように説明を行っている。また、疑問があれば、いつでも説明、回答が出来るように対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様はもちろん御家族の方からも意見を頂ける様な雰囲気づくりに努めており、面会時にも面会カードに意見欄を設けて意見を頂ける様にしている。 | 年1回の家族会や面会時、電話連絡の際に意見や要望を聞き取っている。利用者家族からの要望で、利用者の趣味(将棋)の継続のためボランティアの受入れも行っている。聞き取った苦情・相談は連絡ノートを利用し職員間で情報共有している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者を含め職員同士でもコミュニケーションを常にとるようにして意見や疑問等、話し合う機会を設けており、現場にも連絡帳等を置き、活用するようにしている。 | 月1回の委員会活動の際に職員の意見・提案を聞く機会を設けている。個別相談では、必要に応じて随時ミーティングを行い職員間で対応検討している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与水準等一部、人事・総務で処理をするが、実績、勤務状況等、管理者からの報告、職員とのコミュニケーションをとる事で常に把握をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修に関しては法人で費用を持ち勤務内に行って頂く等、職員が自ら参加しやすい体制を作っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内で事業所がいくつかあるので、会議の場等を活用し、情報の共有を図っている。また、施設内で認知症カフェ等を開催して頂いた時などに交流を図り、サービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 契約前にアセスメントをとる際に話を伺い、日頃も本人に要望を伺い、出来る限りの対応を心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約前にアセスメントをとる際に話を伺い、日頃も御家族に要望を伺い、出来る限りの対応を心がけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前にアセスメントをとる段階で要望を伺い、契約時や日頃にも相談を受ける体制を取っており、サービスに関してもケアマネを通して、対応をさせてもらっている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共同生活という意味で、職員が常日頃から意識し対応をさせてもらっている。また、本人様が出来ることは進んで行って頂いたり、得意な事は教えてもらったりしつつ楽しく過ごしてもらっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時になるべく近況報告を伝えるようにして、なかなか来られない御家族には定期的に電話連絡をして近況報告をするようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会時に面会場所の制限を設けずに、共有部分であったり、居室内はもちろん、地域交流ホールであったり、好きな場所で面会をしてもらえるようにしている。 | 利用者家族の支援を得ながら馴染みの人や場所との関係が途切れないように図っている。友人の訪問や将棋や手芸など入居前の趣味の継続も職員やボランティアの協力を得て継続している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様によって相性の良さ悪しがある為、状況に応じて職員が間に入る事があるが、座って頂く位置などを配慮して、入居者はなるべくフロアで過ごして頂ける様に心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も必要に応じて連絡を取れるように、体制を整えています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者様によって思いが、それぞれ違う為、伝えたい意味を本人との関わりを通して、行動から読み取り、本人の意向把握に努めている。 | 介護度も軽度であり日常会話の中で利用者の思いを聞き取り把握を行っている。聞き取った言葉や思いは連絡ノートに記録し、職員間で情報共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 御家族や紹介者からの情報と共に入居者様からの昔の話等を伺い、行動を読み取りながら、生活歴や生活パターンを把握するようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居者様によって生活リズムが違う為、その方の生活リズムに合わせて過ごしてもらうようにしているが、体操やレクなど集団で行う事に関しては、職員から参加を促し、声掛けをすることがある。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者様の状態を考えた上でケアマネを中心に職員からの情報を収集し、また御家族からも聞き取りを行い、その意見も踏まえプランに反映させている。 | 更新・見直し時期は、長期は6ヶ月・短期は3ヶ月としている。見直し時期には日常の状態のほか、介護日誌や職員へのヒアリングを基にモニタリングして介護計画の評価を行い状態の変化を見ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 24時間シート、ケース記録を活用して記録を残している。また、職員であれば誰でも閲覧できるようになっている。また、申し送りノートを活用し、現場の職員、管理者共に情報の共有が出来ていると思います。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 昼夜を問わずに生活全般の支援にあたる為、そのニーズも多岐にわたるが、必要性に応じた柔軟な対応を目標に「決めつけない介護」を目指している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 自治会に参加して定期的に回覧板を回してもらい繋がりを得る為に情報を把握している。また地域の方に顔を知って頂く為に地域の行事に参加をさせてもらっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 提携医療機関の説明を契約時に説明させて頂き利用をしてもらっているが、なかには入居者様、御家族の意向で他の医療機関を利用する入居者もいます。 | 入居時にホームの医療支援体制についてのメリット・デメリットを説明し理解を得たうえで、入居者全員が協力医をかかりつけ医としている。看護師は併設施設との兼任で、月2回のかかりつけ医の往診により入居者の健康維持に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設する施設の看護師しかいないので、日頃の健康管理等、介護職が疑問に思った事、質問等は出勤時に併せて相談を行うようにして連携を取るように心掛けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 特になし。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 特になし。 | 入居時の説明でグループホームとして出来ることを伝え利用者や家族に理解を得ている。重度化や看取り対応についてマニュアルや指針の整備までには至っていない。 | 重度化、看取りについてのホームとしての取り組みは明確にする必要がある。マニュアルや指針の整備を今後の課題として提案したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 委員会活動を通して、マニュアルを作成し、勉強会を行い説明を行っている。また、職員が疑問に思った事などもその都度、説明を行い、緊急時に対応が出来るように心掛けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に4回の消防訓練を行ない、うち2回は消防に来て頂き、立会いの下で訓練を行っている。また、救命講習も定期的に行っている。 | 年4回、うち2回は消防立会いで夜間・日中の避難訓練を行っている。職員は全員、救命救急の教育・訓練を受講している。地域からは、福祉避難所としての指定も受けており、備蓄等も備え地域との連携・協力体制も整えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 親しみを持って接するようにしているが、言葉遣い等は入居者様の性格や状況に併せて変える事がある。また、言葉遣い等出ていない職員に対してはその都度注意をするようにしている。 | 年長者としての礼儀をわきまえ、接遇・マナー研修などにより尊厳やプライバシー確保に努めている。居室入室時のノックや言葉がけなど、親しい中にも馴れ合いにならないように心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人に確認を取ってからケアを行うようにしている。状況に応じて、しゃべれない入居者様の方に関しては、メモ用紙を活用したりジェスチャー等で相手の気持ちを確認するようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の時間の流れ(食事の提供時間・入浴時間等)は決まっているが、その中でくつろいで過ごせるように入居者様のペースに併せて対応できるように心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着替えを選んで頂く際等、入居者様と一緒に出来ることは行うようにしている。また、顔周りや口腔ケア等も職員が気にして行えてないようであれば、声掛け等して行ってもらえるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 施設内で行う給食会議で入居者の意見を反映させています。また、月に2回手作りおやつの日を設けて、入居者様の方と職員でおやつ作りを楽しんでいます。 | 併設施設で調理しているため施設の調理場では盛付け・配膳をする程度となっている。入居時に服薬や嚥下状態の確認も行い、食事制限や刻み食等への対応も行っている。月2回の手作りおやつを利用者・職員で作って楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 委託している会社にまかせてあるが、情報の共有はしている。また、給食会議の場でも報告をさせて頂き、水分量も記録として残すようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 職員の声掛けや付き添いによって、ご自身で口腔ケアを行って頂くようにしています。また、義歯調整等、必要に応じて協力医療機関の歯医者に来て頂き支援をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご自分で出来る入居者様の方は見守りで、必要に応じて排泄チェックや誘導を行い、入居者様の把握を行い、パターンに併せて柔軟に対応をしています。 | 念のためのリハパンやパットを利用する利用者もいるが、現在入居者全員がトイレでの自立排泄ができています。排泄チェック表(個人の24時間状態確認シート)により定時の声掛けや誘導も行き自立排泄が出来るよう支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日々の排便チェックの確認を必ず行い、状況に応じて、医師や看護師に相談を行いアドバイスももらって対応しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 拒否のある方には曜日にこだわらず、場合によっては清拭等に対応するなど、状況に応じて柔軟に対応しています。 | 週2回、午前中に入浴している。利用者の希望によっては午後でも清拭や足浴など清潔感を保つ支援を行っている。柚子湯や菖蒲湯など季節を感じ配慮もされている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者様のリズムに併せた対応をしています。夕食後、すぐに部屋に戻ってテレビを見ている方、フロアでテレビを見ながら遅くまで起きてる方など、様々ですが職員が寝る体制になるまで見守りを行っています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤師と連携を行い、誤薬のないよう確認を徹底しています。また、薬に関して知識が少ないため、薬剤師に情報を頂くと共に服薬介助の際に症状の変化の確認を怠らないように努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生い立ちが様々な方ばかりなので、全てに対応できませんが、将棋の好きな方であれば、ボランティアの方に来て頂いたり、編み物が好きな方であれば、職員と一緒にいたり入居者様の要望には応えるようにしています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 複合施設のため、施設内にある中庭や他の施設へ職員と一緒に散歩をしたり、御家族の方との外出を支援したり、地域の行事に参加したりと外出を実践している。 | 施設内の中庭や駐車場を利用して日常的に外出機会を持ち、季節を感じたり外気に触れ気分転換をしている。月1回の外出レクや家族協力で外出など個別外出も行っている。また、入居者全員で近隣のいちご狩りなども企画されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者様によって異なりますが、御家族様から要望があった場合のみ、同意書を取って少額の金額を本人管理で所持してもらっています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話でのやり取りは行ってませんが、手紙に関しては本人からの希望があるときのみ対応しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節ごとに入居者様と共にユニットの入口を飾る、飾り物を作成したり、飾り付けをしたりして雰囲気作りをしています。 | 複合施設となっており地域交流ホールでボランティアがイベントを行うこともできる。2ユニットの間には畳スペースがあり寛ぐこともできる。入居者は日中、リビングで新聞を読んだりテレビを見たり、職員と話し込んだり和やかに過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビ前に置いてあるソファや共有スペースの畳部分等、施設の中を自由に行き来出来、思い思いの場所で過ごして頂ける様にしています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様の方によって違うが、自宅で使い慣れた家具などを、それぞれに持ち込まれて自由に部屋に配置し、人によってはテレビなども持ち込み好きなように過ごして頂ける様にしています。 | 居室はフローリング・カーペット・和装の3タイプあり空き状況により好みの部屋を選ぶことができる。ベットとダンスが据え置きされ、利用者はテレビや遺影など入居前の生活が継続できるような環境で生活できるように配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内は自由に歩き回って頂く際にも支障がないように適材適所に手すりを配置し、トイレなどわかりやすいようにマークを付けて表示をしています。居室も入居者様の方によっては自分の名前を表記したり飾り付けをして工夫をしています。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2395700244 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人あかね会 | | |
| 事業所名 | グループホームうのさと茜邸 | | |
| 所在地 | 知多郡東浦町大字緒川字雁狭間山1番地21 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年 3月 9日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年 4月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&KijyosyoCd=2395700244-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 中部評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F | | |
| 訪問調査日 | 平成30年 3月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

複合の施設になる為、将来、グループホームで対応が難しくなっても、同じ敷地内にある特別養護老人ホームや認知症対応型デイホームを使用して頂くことが出来、併設する託児所の子供達との触れ合いも施設内中庭やグループホームのユニットで楽しんで頂く事が出来る施設になります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人としての理念を掲げ、新人教育の際に説明を行い、名札に入れて常に見えるようにしている。 また、職員の通用口に張り出しをして、常に確認を出来るようにしている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ボランティアの受け入れを定期的に行い、施設内の地域交流ホールを活用して、演奏や踊りなどを行って頂いたりして交流をしている。 また、自治会に参加して定期的に回覧板を回して頂き交流をしている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 特になし。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度、開催を行い地域の区長、民生委員、地域包括支援センター、御家族、入居者から話を伺い、ヒヤリハットや事故報告等、事業所の現状を報告し、頂いた意見は現場の職員と共有し、サービスの向上に活かしています。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 常日頃から連絡を取れている訳ではないが、事業所として書類提出時等、報告や相談をすることがあります。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 委員会活動等を活用して勉強会を開催し、また、現場でも職員同士で意見を出し合いながら、拘束のないケアが出来るように取り組んでいる。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体的な虐待のみでなく、言葉遣い等も含めて、入居者様に対して苦痛を与えないように心掛けており、職員に対しても出来ていない事があれば、職員同士で注意をする。管理者から注意する等、日々、防止に努めるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 委員会活動等を活用して勉強会を開催し、制度について学ぶ機会を設けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約、解約時は十分な説明を行い、入居者様や御家族がわかりやすいように説明を行っている。また、疑問があれば、いつでも説明、回答が出来るように対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様はもちろん御家族の方からも意見を頂ける様な雰囲気づくりに努めており、面会時にも面会カードに意見欄を設けて意見を頂ける様にしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者を含め職員同士でもコミュニケーションを常にとるようにして意見や疑問等、話し合う機会を設けており、現場にも連絡帳等を置き、活用するようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 給与水準等一部、人事・総務で処理をするが、実績、勤務状況等、管理者からの報告、職員とのコミュニケーションをとる事で常に把握をしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修に関しては法人で費用を持ち勤務内に行って頂く等、職員が自ら参加しやすい体制を作っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内で事業所がいくつかあるので、会議の場等を活用し、情報の共有を図っている。また、施設内で認知症カフェ等を開催して頂いた時などに交流を図り、サービスの向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 契約前にアセスメントをとる際に話を伺い、日頃も本人に要望を伺い、出来る限りの対応を心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約前にアセスメントをとる際に話を伺い、日頃も御家族に要望を伺い、出来る限りの対応を心がけている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前にアセスメントをとる段階で要望を伺い、契約時や日頃にも相談を受ける体制を取っており、サービスに関してもケアマネを通して、対応をさせてもらっている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共同生活という意味で、職員が常日頃から意識し対応をさせてもらっている。また、本人様が出来ることは進んで行って頂いたり、得意な事は教えてもらったりしつつ楽しく過ごしてもらっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時になるべく近況報告を伝えるようにして、なかなか来られない御家族には定期的に電話連絡をして近況報告をするようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会時に面会場所の制限を設けずに、共有部分であったり、居室内はもちろん、地域交流ホールであったり、好きな場所で面会をしてもらえるようにしている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様によって相性の良し悪しがある為、状況に応じて職員が間に入る事があるが、座って頂く位置などを配慮して、入居者はなるべくフロアで過ごして頂ける様に心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も必要に応じて連絡を取れるように、体制を整えています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者様によって思いが、それぞれ違う為、伝えたい意味を本人との関わりを通して、行動から読み取り、本人の意向把握に努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 御家族や紹介者からの情報と共に入居者様からの昔の話等を伺い、行動を読み取りながら、生活歴や生活パターンを把握するようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居者様によって生活リズムが違う為、その方の生活リズムに合わせて過ごしてもらうようにしているが、体操やレクなど集団で行う事に関しては、職員から参加を促し、声掛けをすることがある。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者様の状態を考えた上でケアマネを中心に職員からの情報を収集し、また御家族からも聞き取りを行い、その意見も踏まえプランに反映させている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 24時間シート、ケース記録を活用して記録を残している。また、職員であれば誰でも閲覧できるようになっている。また、申し送りノートを活用し、現場の職員、管理者共に情報の共有が出来ていると思います。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 昼夜を問わずに生活全般の支援にあたる為、そのニーズも多岐にわたるが、必要性に応じた柔軟な対応を目標に「決めつけない介護」を目指している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 自治会に参加して定期的に回覧板を回してもらい繋がりを得る為に情報を把握している。また地域の方に顔を知って頂く為に地域の行事に参加をさせてもらっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 提携医療機関の説明を契約時に説明させて頂き利用をしてもらっているが、なかには入居者様、御家族の意向で他の医療機関を利用する入居者もいます。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設する施設の看護師しかいないので、日頃の健康管理等、介護職が疑問に思った事、質問等は出勤時に併せて相談を行うようにして連携を取るように心掛けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 特になし。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 特になし。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 委員会活動を通して、マニュアルを作成し、勉強会を行い説明を行っている。また、職員が疑問に思った事などもその都度、説明を行い、緊急時に対応が出来るように心掛けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に4回の消防訓練を行ない、うち2回は消防に来て頂き、立会いの下で訓練を行っている。また、救命講習も定期的に行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 親しみを持って接するようにしているが、言葉遣い等は入居者様の性格や状況に併せて変える事がある。また、言葉遣い等出来ない職員に対してはその都度注意をするようにしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人に確認を取ってからケアを行うようにしている。状況に応じて、しゃべれない入居者様の方に関しては、メモ用紙を活用したりジェスチャー等で相手の気持ちを確認するようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の時間の流れ(食事の提供時間・入浴時間等)は決まっているが、その中でくつろいで過ごせるように入居者様のペースに併せて対応できるように心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着替えを選んで頂く際等、入居者様と一緒に出来ることは行うようにしている。また、顔周りや口腔ケア等も職員が気に行えてないようであれば、声掛け等して行ってもらえるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 施設内で行う給食会議で入居者の意見を反映させています。また、月に2回手作りおやつの日を設けて、入居者様の方と職員でおやつ作りを楽しんでいます。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 委託している会社にまかせてあるが、情報の共有はしている。また、給食会議の場でも報告をさせて頂き、水分量も記録として残すようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 職員の声掛けや付き添いによって、ご自身で口腔ケアを行って頂くようにしています。また、義歯調整等、必要に応じて協力医療機関の歯医者に来て頂き支援をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご自分で出来る入居者様の方は見守りで、必要に応じて排泄チェックや誘導を行い、入居者様の把握を行い、パターンに併せて柔軟に対応をしています。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日々の排便チェックの確認を必ず行い、状況に応じて、医師や看護師に相談を行いアドバイスももらって対応しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 拒否のある方には曜日にこだわらず、場合によっては清拭等に対応するなど、状況に応じて柔軟に対応しています。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者様のリズムに併せた対応をしています。夕食後、すぐに部屋に戻ってテレビを見ている方、フロアでテレビを見ながら遅くまで起きてる方など、様々ですが職員が寝る体制になるまで見守りを行っています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤師と連携を行い、誤薬のないよう確認を徹底しています。また、薬に関して知識が少ないため、薬剤師に情報を頂くと共に服薬介助の際に症状の変化の確認を怠らないように努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生き立ちが様々な方ばかりなので、全てに対応できませんが、将棋の好きな方であれば、ボランティアの方に来て頂いたり、編み物が好きな方であれば、職員と一緒にいたり入居者様の要望には応えるようにしています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 複合施設のため、施設内にある中庭や他の施設へ職員と一緒に散歩をしたり、御家族の方との外出を支援したり、地域の行事に参加したりと外出を実践している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者様によって異なりますが、御家族様から要望があった場合のみ、同意書を取って少額の金額を本人管理で所持してもらっています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話でのやり取りは行ってませんが、手紙に関しては本人からの希望があるときのみ対応しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節ごとに入居者様と共にユニットの入口を飾る、飾り物を作成したり、飾り付けをしたりして雰囲気作りをしています。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビ前に置いてあるソファや共有スペースの畳部分等、施設の中を自由に行き来出来、思い思いの場所で過ごして頂ける様にしています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様の方によって違いますが、自宅で使い慣れた家具などを、それぞれに持ち込まれて自由に部屋に配置し、人によってはテレビなども持ち込み好きなように過ごして頂ける様にしています。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内は自由に歩き回って頂く際にも支障がないように適材適所に手すりを配置し、トイレなどわかりやすいようにマークを付けて表示をしています。居室も入居者様の方によっては自分の名前を表記したり飾り付けをして工夫をしています。 | | |